

絵画展 「消えゆく折尾駅とその周辺101景」を終えて

5月16日から5月31日まで「ゆめ広場」にて西川幸夫 スケッチ・淡彩「四季彩」陣原市民センター教室の皆様による絵画展「消えゆく折尾駅とその周辺101景」が開かれました。折尾駅周辺の何げない風景を心温まるタッチで描かれた絵は訪れる人々の心をなごませてくださいました。ありがとうございました。又、朝日新聞にもその様子が掲載され大きな反響をいただきました。

作品を展示していただいた方々に絵画展の感想・折尾駅への想いを寄せていただきました。

(50音順に掲載しております。)

永年慣れ親しみ人々を見守ってきた折尾駅の建て直しが決まり、レトロな駅舎が消えていくのはとても寂しく感じます。私達が描き残した風景画はいつまでも色褪せず心に残ることでしょう。

池田 亜都子

暖房として使われていたストーブを囲むベンチは折尾駅のたった一つの宝物のように思っています。形も素晴らしいです。座っておりますと妙に落ち着きます。新しい駅になります時に居心地のよい場所に残したならば駅を利用する人への憩いの場として愛されることでしょう。

岩田 祥子

学生時代を大阪で過ごした4年間、出発時、帰省時折尾駅を利用した。「頑張ってこいよ」「お帰りなさい」と言ってくれた、筑豊本線と鹿児島本線とを結ぶ赤レンガの連絡通路。わが青春の一番の思い出である。

瓜田 惇二

折尾駅が新しくなると聞いた時、「保存されるんだろう。」と考えました。日本で数少ない線路が上下で十字になっている駅であることから駅自体が残って今日あるという。遺産として描き残すというのは淋しい気持ちでした。

大川 力

老朽化した建物を頑丈なコンクリートでスマートに建て替える。そのことは現在では必要なことだけど、明治・大正時代の面影がひとつずつ消えていくのは残念です。これも時代の流れなのでしょうか？

幸い写真や絵はいつまでも残ります。小倉南区に住んでいる私にとって折尾駅は、今まで電車の中から見るだけでしたが、描く機会に恵まれて忘れられない駅になりました。

尾山 敏子

5番ホームの石段を利用する毎に三年間の高校生活を思い出していました。名残り惜しみながら描きました。

仲間入りしたばかりの私に描く意欲と素敵な友人達をあたえてくれた“消えゆく折尾駅周辺を描く”よ、ありがとう。

過能 幸子

折尾駅を描くと決まって取材をしている中で、私は駅舎・待合室の丸いイス・それにホームの天井・柱・ホームから見る風景・若松線・学園通りなどがどう変わるだろうかと思い描いてみました。

駅の歴史を目の中に残しています。
菊池 初代

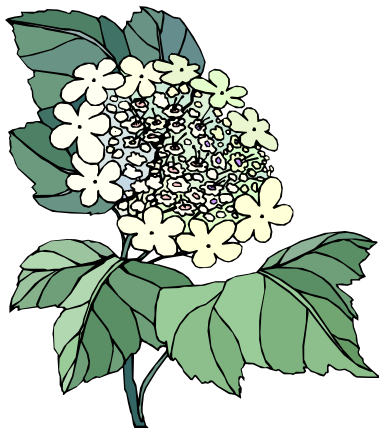
折尾に住むようになって27年、月の半分はJRを利用しています。5番ホームへの古い石段を昇った時のホームの屋根は実に素晴らしい。何枚か描き残しました。

皆で描いた駅の絵を、もう少し多くの人に見てほしかったです。

田代 洋子

幼い頃、父から「汽車が小倉駅に着いた時“ココダー、ココダー”の放送を聞き、折尾駅で“オリロー、オリロー”の声を耳にして汽車からあわてて降りた旅人がいたよ」との話しを聞いた。順番はさだかではないが、父の思い出と重なり折尾駅は心に残る駅名と駅舎です。

抜井 弘子



折尾駅が今年中に取り壊される予定と知り、私達生徒は現在の折尾駅の風景を形に残しておかねばと思い十二人が手分けして懐かしい風景を一人一人の思い出として絵に描き残しました。

関岡 マサ子

今迄私にはあまり馴染みのなかった折尾駅、今回スケッチをするためにカメラを持って駅の構内を歩いた。何故か初めてなのになつかしい気がしてシャッターを切った。古びた木組みの天井、毎日お客様が足早に歩く赤レンガの地下通路、又レトロな壁画、どこも何か心なごむそんな光景ももうすぐ新しい駅に生まれ変わる。

淋しい気がするがそれも時代の流れでしょうか・・・

南郷 菊代

折尾近郊の住宅地に移り住んで約30年になる。絵の教室で「テーマ」にそって10枚の課題が与えられた。題材を探して折尾の街を歩いてみて、街の急変ぶりにあらためて驚いた。

がんばれ、折尾の街！

花村 博正

「ゆめ広場」さんありがとうございました。おかげ様で「昭和の風景」をとどめる折尾駅周辺を描き残す事ができました。生徒のみなさんのいきいきとした絵にも感動です。

ただ、この企画の主役であった折尾駅の冷めた対応が残念でした。

スケッチ・淡彩「四季彩」主宰 西川 幸夫